

北海道大学 大学力強化推進本部 URAステーション 様

共同研究プロジェクトの推進をポリコムが支援。
安定した多地点接続で効率的な意見交換が実現



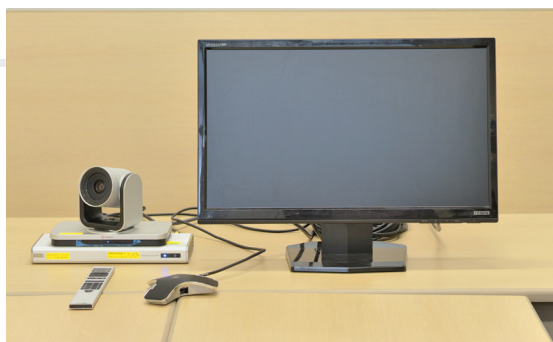
田中 晋吾 様
北海道大学
大学力強化推進本部
URAステーション
主任URA

■導入システム一覧

- RealPresence Group 700-720
EagleEye IV-12倍ズームカメラモデル
- RealPresence Group シリーズ用
内蔵MCUライセンス
- RealPresence Group シリーズ用
ルームマイクアレイ



省スペース性や可搬性をポイントに構成されたシステム。必要な時に取り出し、都度セットアップして使用するスタイルがとられている。



狭い空間でも広い画角を捉える EagleEye IV カメラを選択。拡張マイクも追加し、広い空間での会議にも備えている。

製品導入の きっかけ

距離を隔てた関係機関との綿密な調整作業には、 ポリコムビデオ会議システムの活用が不可欠

日本の北端に位置する総合国立大学、北海道大学。歴史ある校舎が立ち並ぶ広大なキャンパスの一角、近代的な研究棟にURAステーションのオフィスは置かれています。

「まだ日本での馴染みは薄いですが、URA(ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター)とは日々、教育や大学の雑務に追われ、本来の研究に時間が割けない研究者を支援する専門職のことを言います。ただし、北大URAはこれに止まらず、大学経営を支える存在としても位置づけられています」と主任URAの田中晋吾氏。

国の財源が減少し少子化も進行する中、国立

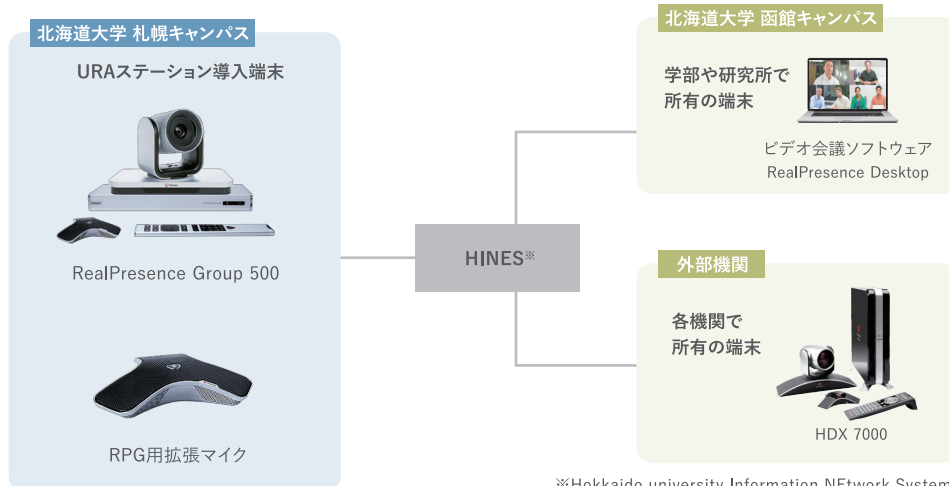
大学には各々が自ら強みを伸ばし、自立につなげる大学力強化が求められています。そうした強みや特色を多角的に分析し、リソースを集中すべき領域を見極めることも北海道大学URAの重要な役割だといいます。

「北大では、その大きな柱の一つが北極の研究です。人工雪の発明で知られる中谷宇吉郎教授が北極で行った観測をはじめ、戦後直後から60年以上にわたる研究の蓄積があります。そこで我々は学内に散在する北極域研究に関する研究者の力を束ねる、『北極域研究センター』の構想から運営にまで関わっています。とはいえ、遠く

北極の研究には多額の費用が必要になりますから、大学単体での研究は非常に難しいというのも現実です」

このような経緯から、現在同学では、国立極地研究所ならびに海洋研究開発機構と共同で北極域研究のプロジェクトに取り組まれています。「ところが両機関とも関東に拠点があるため、コミュニケーションの手段は大きな課題でした。こうしてビデオ会議システムの導入を検討し始めたのです」

[システム概要]



選定のポイント

可搬性に優れたコンパクトさや充実した多地点接続機能に注目

ポリコムを選定された理由としては、「先の両機関がすでに同社のシステムを導入していたことが大きいですね。安価なアジアメーカーの製品も検討しましたが意外と価格差も少なく、接続の確実性を考えると他に選択肢は見当たりませんでした。また、個人的に前職の時代からポリコムの使用経験があり、信頼感や安心感を持っていました」と田中氏は当時を振り返ります。

機器の選定は部内で検討された結果、メインシステムの“RealPresence Group 500”に多地点接続ライセンス(オプション)、EagleEye IV カメラ、拡張マイクを組み合わせた構成に。学内には大学独自のネットワーク(HINES)が整備されており、どの部屋でも安定した通信環境でビデオ会議が可能になっています。

導入時の要望としては「まずコンパクトなこと。常設できる空間が無く、学内のあちこちでシンポジウム配信を行うケースもあるので、運びやすく未使用時には片付けやすいモデルが希望でした。また、外部機関や函館キャンパスを交えて会議を行うため、多地点接続機能が使用できることも必須条件でした」。

導入後の効果

出張コストの削減はもとより、異なる組織間の調整にも大きく貢献

現在は主に、関係機関と共に取り組む北極域研究のプロジェクトに際し、月に1度開催される運営委員会に向けた事前打ち合わせを、月に2回ほどポリコムで行っているといいます。

「活動拠点や文化の異なる組織が一緒のものごとを進めるには調整にも時間がかかります。そんな場合も、必要な時に速やかに意見を交換できる会議システムは非常に有用です。それに、札幌～東京間をまともに出張すると日帰りでも1人あたり7万円ほど必要ですから、コスト面でも利点は大きいですね」

研究の世界は大規模化や国際化の傾向にあり、今後は異分野連携や日本の強みと海外の強みを相乗的に活かす、国際共同研究などの機会も増加するといいます。

「そうすると、ポリコムのような高品質なビデオ会議システムの必要性はより大きなものになるはずですね。今後は海外へ向けたシンポジウムの配信も含め、積極的に活用したいですね」と田中氏。今回導入されたポリコムビデオ会議システムは、北海道大学の皆様の幅広い活躍をこれからも支えることでしょう。

北海道大学 大学力強化推進本部 URAステーション

北海道大学の研究力の強化や、グローバル化の推進を支える「大学力強化推進本部」の中核組織として活動するURAステーション様。全学的な研究戦略企画や研究推進支援、大学力強化のためのシステム改革に広く取り組まれています。

所在地:札幌市北区北21条西10丁目創成科学研究棟5階

設立:2012年 ウェブサイト:<http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/ura/>



導入時期:2016年1月/取材時期:2016年4月

お問い合わせ

E-mail dcs-info@princeton.co.jp

輸入販売代理店

株式会社プリンストン URL <http://www.princeton.co.jp/>



PolycomおよびPolycomのロゴ、また、polycom, Incの米国およびその他の国における商標です。本紙に掲載している会社名と製品名は米国またはその他の国における商標登録です。本紙に掲載している製品写真は出荷時のものと一部異なる場合があります。本紙の本文内ではTMマークや®マークは明記していません。